

35歳 だった

倒れても、拳は下ろさず

起業家、大学講師

板越 ジョージ

2002年のある日、ダウンタウンのパーティー会場に日本人約50人が集まった。会社員、経営者、芸術家、美容師など、肩書きや年齢が違えば、足を運んだ理由もさまざま。仕事の

好転せず、むしろ「人生で最悪の年」。それも、1年では終わらなかつた。

ためのネットワーク作りという人がいれば、単に人恋しいという人もいる。熱気に包まれた会場は、不思議な期待感に満ちていた。

板越は1995年、26歳で、出版や広告、インターネット事業を手掛ける会社をアメリカで設立し、その後十数社を起こした。95年といえば、アマゾンやヤフーなどのインターネット・ベンチャーが誕生した年。90年代後半のITバブルを追い風に、板越も事業を急成長させ、日本人最年少の米国株式会社市場上場を目指して資金を集めていた。

板越ジョージは、その前に起きた同時多発テロをきっかけに、「ニューヨーク異業種交流会」を立ち上げた。「頑張る日本人を応援したい」と思ったからだ。それから11年、交流会は毎月定期的に開催され、この6月で121回を迎えた。

しかし、ITバブル崩壊とともに事業は減速、01年のテロに「とどめを刺された」。会社は倒産し、日本円で億単位の借金をしよい込んだ。ソニーに構えていた事務所は、家賃を滞納して強制退去させられた。

板越は当時、事業に失敗して巨額の借金を抱えていた。顔には出さないが、板越にとって交流会は、夜逃げ前のいわば「お別れの会」。35歳になった03年も状況は

転居先は見つけたが、借金取り立てへの対応で仕事にならない。取引先からは罵倒され、土下座して謝罪した。事業を整理し、社員は解雇。良かれと思つてやることはすべて裏目に出て、ビジネスパートナーにも裏切られた。助けくれた恩人や仲間はいだが、他人からいわれのない中傷を受け、精神も患った。

4年ほどで何とか借金は返済したが、再び気持ちが前向きになるまで10年近くかかった。「夢が終わり、自分に対する自信をなくした。というか、信用を失ったことが、やつぱりものすごくつらかつた」

それでも交流会を続けてきたのは、それが唯一安心できる場所であり、心の張りでもあったから。「準備は大変ですが、終わるとほっとして、次の会

までもう一回頑張ろうと思えたんです」

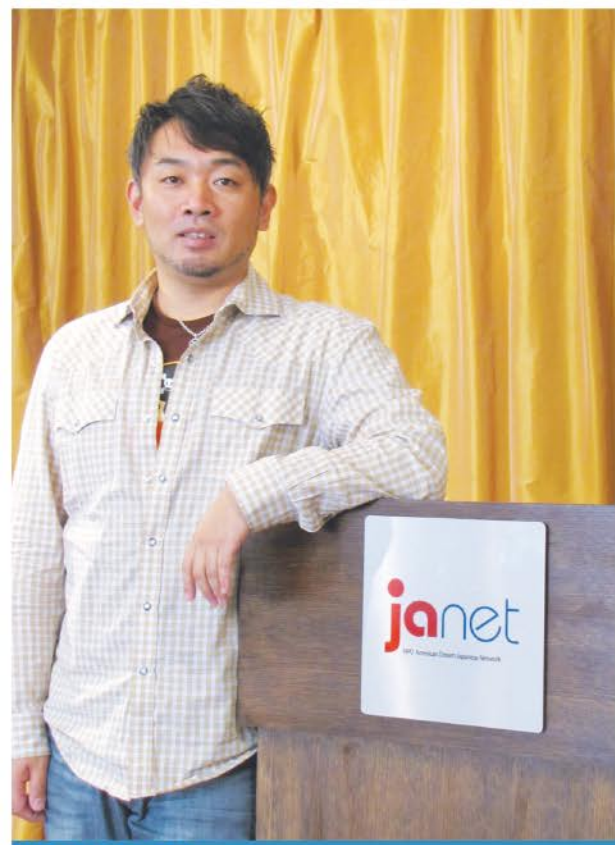
若いころは、起業家として常識やルールを壊す立場だった。しかし、これからはルールを作る立場で広く発言していきたいという。そのために、09年に中央大学大学院に入学し、ニューヨークから東京に定期的に通い、現在は博士後期課程で研究を続ける。専門は、知的財産やコンテンツ産業、グローバル経営、など。アメリカで起業家として培った経験と、大学院で身に付けた専門知識を両輪に、日本社会に役立つ提言を行うのが目標だ。

4月には、日本のアニメ、マンガなどのコンテンツ産業の方向性を示す本を上梓した。日本の行政当局からの関心は高く、手応えを

感じている。「これからは、僕と同世代が国を引つ張って行く時代。それを、指をくわえてじっと見るだけの外野にはなりたくない。裏方でグイグイひっぱる、モーターになりたいですね」

高校卒業まで過ごした日本では、父親が事業に失敗して家を失い、猛勉強した大学受験で挫折した。有名大学から優良企業就職という「レールに乗り損ねた落ちこぼれ」は、日本では受け入れてもらえない。が、むしろに走ってきた人生は、その「コンプレックス」を克服する旅だったのかもしれない。

「35歳で一度死んだと思つていたら、心は死んでいなかった。拳（こぶし）は上げていたんだと思う」。倒産後の我慢と努力が実を結ぶ予兆を、今感じている。敬称略（大村智子）



いたこし・じょーじ

1968年東京生まれ。ジャーナリスト事務所でタレント活動をしながら中学を卒業。高校卒業後はバイク便のバイトで資金を作り、サウスカロライナ大学国際政治学部に留学。ニューヨークの出版社勤務を経て、インターネット関連や出版、アニメ・キャラクターグッズ卸など十数社を起こす。現在は出版(www.amedori.net)、米国会社設立コンサルティング(www.uskigy.com)などを手掛ける。中央大学大学院の経営修士(MBA)過程修了後、同大学院総合政策研究科の博士後期課程に在籍中。成城大学招聘講師。著書に「グラウンド・ゼロ」(扶桑社)、『結局、日本のアニメ、マンガは儲かっているのか?』(ディスカヴァー・ポピー)など。

2003 35歳だった年のできごと

- 都市銀行合併で、りそな銀行、三井住友銀行発足
- 六本木ヒルズがオープン
- 米英がイラク侵攻、イラク戦争開戦
- 北朝鮮が核拡散防止条約脱退を宣言
- 『千と千尋の神隠し』がアカデミー賞アニメ部受賞